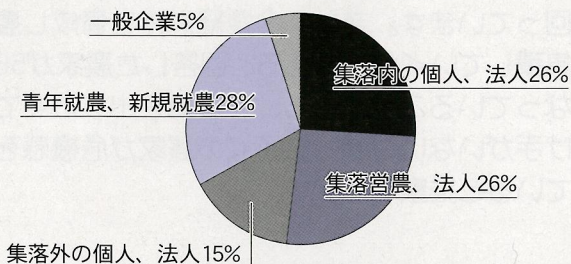
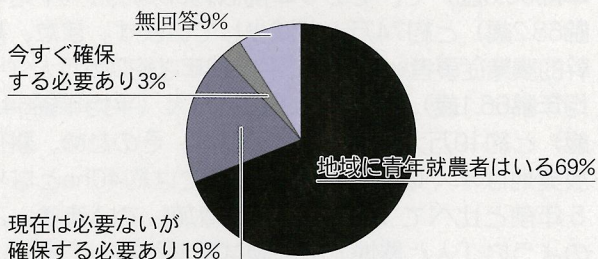


② 今後経営体を育成する場合の育成先

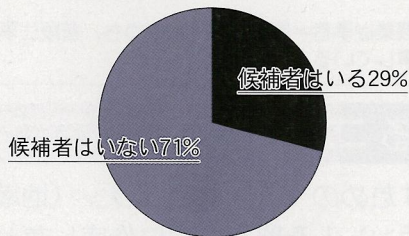


設問4. あなたの地域では、今後地域内の農地を守っていく若い世代の担い手（青年就農者）がいますか。

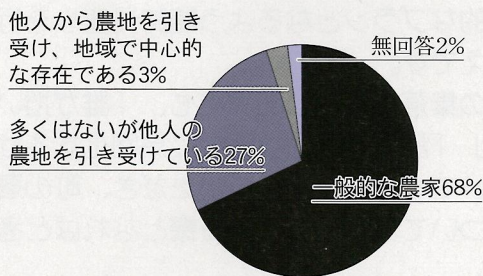
① 地域内の農地を守っていく青年就農者はいますか。



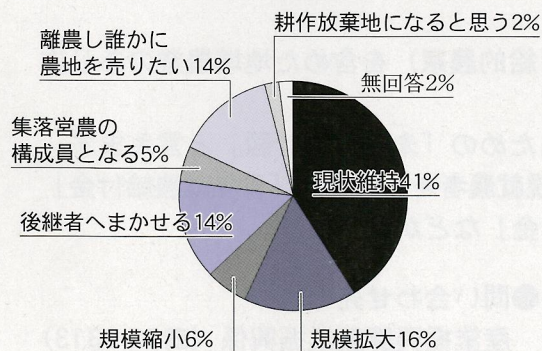
② 確保する場合候補者はいますか。



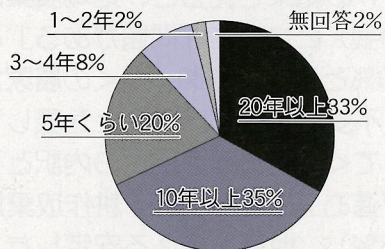
設問5. あなたの地域での立場を教えてください。



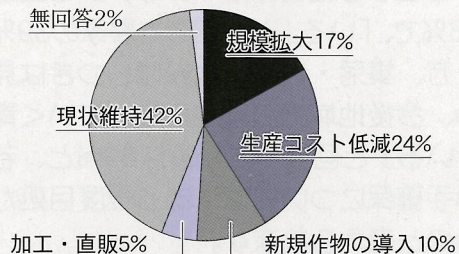
設問6. あなたの今後の農業経営に対するお考えは、いかがですか。



設問7. あなたの農業経営は今後何年くらいできると考えていますか。



設問8. あなたの農業経営に必要なものは何だと思いますか。



自由記述より(抜粋)

- 若い後継者に負担がかからず営農が続けられるような対策が必要
- 農業は国の考え方次第のためこの先どうなるのか読めない
- 農家戸数の減少に伴い一戸当たりの耕作面積が増加している。これ以上増加する場合家族労働では対応しきれない。そのため、集落営農などにより労働力、機械などを有効に活用することが必要
- 労働力不足解消のため、TMRセンター※方式などは有効な手段だと考えます。今後は人を雇用するような経営体の育成が必要

※TMRセンター＝牛の飼料を供給する施設

- 今後後継者不足などにより耕作放棄地の拡大が予想され、地域としても成り立たないことも想定されるなか、町、JAの対策も重要だが、国、道の政策により大きく左右されると考える
- TPPなど、農業の将来は厳しいと思うが、国民の食料生産のため新規就農にもっと力をいれてほしい
- コスト低減のため機械等を導入することによる出費など、機械の更新のために働いているようで馬鹿らしく思うときがあります。農家人口の減少により農家のいなくなる日が来るのではないかと心配です
- 規模拡大、法人化の推進などにより経営体の数の確保が必要。そのために最大限の資金援助が必要
- 若い後継者などとの意見交換の場を作ることが必要
- 経営が苦しくなってからの経営転換は難しいので、その前に周囲で相談できる体制づくりが必要では